

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900656		
法人名	NPO法人こうえい会		
事業所名	グループホームこうえい愛宕館(ユニットこうえいひかり館)		
所在地	旭川市豊岡8条7丁目3-2		
自己評価作成日	2022/1/11	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

こうえい会の理念である【アガベトスキル】「ありのままを知り受け入れる」「自分らしく生きる」「よるこびの実現」の実践。その人らしく生きる事、安心して穏やかに過ごすこと、笑いの絶えない毎日が送れるように支えるケアの実践。月1回のカンファレンスではアセスメント力を身につけ、ケアの統一を目指して話し合う体制。3ユニット合同の勉強会を通して、認知症ケアの知識と技術をアップすること、外部研修に積極的に参加することで研鑽を積むことなど、学ぶ機会を多く持っている。スタッフがスキルアップ(資格取得)を目指す体制にある。コロナ禍のために、カンファレス、勉強会はオンラインを使用し実施を継続している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内にこうえい会独自の理念を掲示し、各職員も携帯サイズを持って意識を高めている。また、折に触れ勉強会や研修でも理念について確認する機会を設け、理念を元に話し合いが成され、職員は共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、職員は花植え、清掃、消防訓練と町内会行事に参加し顔なじみになっており、ご近所の方とは日常的に挨拶をかわしている。避難訓練には年1回、声をかけ参加して頂いているが、今年度はコロナ禍のために町内会の行事には参加出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開いて具体的なケアの方法、実践、事例等を報告し、意見交換をして認知症の方の理解を求めている。また施設長が認知症の研修会で講師をしており、他施設職員の研修、医大生、地域の中学生の実習にも施設を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、年6回開催し、ご家族、行政、地域の方の参加がある。内容はケアに関すること、実践、認知症の理解などをテーマにしている。会議で話し合われたこと、頂いた意見を、日々のケアに活かせるよう努めている。コロナ禍のため紙面開催となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修等に積極的に参加したり、手続き等で分からない事は直ぐに介護高齢課、福祉課に連絡を取り、協力を頂いている。家族への支援にもアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回主任会議の場で身体拘束委員会を行っている。職員は交替で外部研修会に参加し理解を深め、勉強会において職員全員で身体拘束に関する事柄を学んで知識を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にスタッフは交替で参加している。参加した職員は勉強会で報告、共有し、職員の意識を深めることが出来る様に学ぶ機会を設けている。学びの際には自分たちのケアを振り返り虐待に繋がらない様確認し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長、管理者は外部研修に積極的に参加し、外部研修後は他の職員にも報告して制度の理解に努めている。過去に制度を利用し保佐人をつけて利用者様がいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には時間をかけ丁寧に説明している。説明後はご家族に不安や疑問を尋ね、相談を受け、理解、納得をして頂けるように努めている。可能であれば、ご本人に入居前に施設見学をしていただき安心して入居して頂けるように支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	折々に利用者さんからの意見を聞く、また不満や気持ちを引き出せるように関わりを持っている。改善できるところは改善に努めている。ご家族の意見、要望も、電話でのやり取りや、来館時に話しやすいよう関係作りに努め、連携を取っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の業務の中で職員からの意見、提案を随時聞き、職員間も意見を出しやすい環境にある。吸い上げた意見を主任会議の場に持って行き、検討して出来る限り運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップのために資格取得を応援している。資格取得の研修には一部助成がある。外部研修等にも積極的に参加を促し、向上心を持って働けるように努めている。また休暇を取りやすく調整し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人力量に合った研修を受ける機会を確保し、参加することを勧めている。月1回の勉強会では介護技術や認知症について等テーマを決めて学び、資格取得だけでなく、日々のケアの質の向上を目指す環境にある。現在はコロナ禍の中のため、オンラインで勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修等の積極的参加を勧め、外部研修で他の施設の方と交流を持っている。研修もオンラインが多くなっているが整えたネット環境を積極的に活用して参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には自宅や入院・入所先などを訪問し、面談を行って聞き取り、情報収集しており、本人の希望を探りながら関係づくりに努めている。事前に見学をしてもらい、少しでも不安なく入居出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学して頂くことや自宅を訪問する事で、面談、聞き取りをして情報収集し、本人、家族の不安を受け止め、必要に応じて連絡を取り、信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学して頂き、また家庭訪問して状況を見極めるためにアセスメントしている。それに基づき必要な支援を確認しケアプランに反映している。訪問リハビリ、訪問歯科等他のサービスも状況に合わせて利用できる説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していく事に対してそれぞれ利用者様の出来る事を見極めて、持つ力を発揮して頂き本人らしくいられる様に支援して共に暮らしている関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、推進会議、各行事に参加して頂いている。定期的な電話連絡と面会時には本人の状況を伝え、協力も頂いて、ご家族と共に支えて行ける関係づくりに努めている。コロナ禍のため、面会や行事の参加に制限があり、家族会も開催できていないが、オンラインを活用して、ビデオ電話が出来る環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	加齢、認知症状の進行により、分からなくなったり不安になることが多くなっているため、一人一人の現状に合わせて対応している。友人や知人、長年診て頂いているかかりつけ医との関係も継続出来る様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を把握し、良好な関係が築ける様に、職員が仲立ちとなって話題提供をしたり、活動を共にしている。行き違いがあってもトラブルにならない様に配慮し、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去された利用者さんのお見舞いに出向くこともある。退去された家族からは時折、介護サービスの相談を頂く事もあり、ウエス等の寄贈もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における利用者同士の会話や職員との会話から得られる発言を把握し、カンファレンス等で情報を共有し検討している。本人の思いに寄り添い、希望や意向に沿ったケアの実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用していた介護サービス事業所から情報提供して頂いている。日々の生活の中から本人の発言、昔の話を引き出し、また行動からその背景をアセスメントして、歩んできた過程を把握し、ケアに反映出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人一人が一日をどのように過ごすか、心身の状態、認知症状など職員は申し送り等で情報を共有して、その日の現状を把握している。その人のペースで過ごせ、その人らしく居られるケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスで、本人の現状課題の把握と、より良い暮らしの為に職員は意見を出し合い、ケアを統一しチームケアを実践している。本人や家族からの要望、関係者からの意見、提案なども協議して、ケアプラン作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子、発言内容、ケアの実践その結果、気づきなどを個別記録に記入し、また連絡ノートなども活用して職員は情報を共有している。カンファレンス等で見直し、ケアの工夫に繋げている。また、記録の書き方も随時学び、よりわかりやすい伝達方法を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況の変化などから生まれるニーズに対し、柔軟に対応できるよう努めている。現在は訪問マッサージを利用している方もいて、必要があれば訪問歯科診療、訪問口腔ケアを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の花壇作り、清掃に参加し近所の方々と顔馴染みになっている。町内のご婦人によるお茶会の実施もある。ショッピング、外食、喫茶店利用、花見、紅葉狩りなど楽しめる機会を設け、生活を楽しめるよう支援している。今年度はコロナ禍の中、外出する機会は殆ど実施できずにいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は本人と家族の希望を聞き、定期受診もしくは往診を受けやすい体制をとり、医療機関との連携を築いている。月2回の医療連携体制で、看護師から日々の体調確認と変化がある時にはアドバイスを頂いてかかりつけ医に繋げている。必要時にはご家族にも受診に同席してもらい、ご家族の希望も医療機関に伝える事が出来る様にしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と月2回の医療連携と24時間相談できる体制にあり、日々のケアの中で得た本人の体調の変化を相談し、医療の観点からアドバイスをもらっている。適切な処置、受診へとつなげ、利用者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時において、病院と利用者の家族と連絡体制を整えて、必要な情報交換を行っている。入院生活の様子、治療の経過など実際訪問することや医療関係者より情報を得て、安心して治療を受けられ、早期に退院へとつなげる様に医療との関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や本人の状態の変化時に看取りについて、本人、家族の希望を確認している。医療関係者の意見、事業所で出来る事を確認し合って、本人がその人らしく穏やかに日々を過ごせるようにスタッフは出来る支援を行えるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて、救命救急の受講を定期的に行うことや、急変時や事故発生時に対応出来る様にシミュレーションを定期的に繰り返し行っている。コロナ禍のため救急隊員を招いての講習は受けられていないが、オンラインでの学びを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難訓練を行い、事業所の避難経路や消火器の場所の確認、チェックを行っている。運営推進会議時に訓練を行って、訓練の状況を地域の方に見て頂き、意見をもらい、協力を得る様に努めている。また、地震停電の経験を元に災害時のための食糧備蓄、燃料、飲水、コンロ等準備など準備をして防災に関する備えをしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーを尊重し、気持ちに配慮した言葉かけ、関わりを実践するように努めている。ケアの内容に不適切なものはないかスタッフは確認し合って、周知できるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定する場面ではそれが出来る様に働きかけ、本人の思いを尊重し、状況を踏まえながら希望に沿えるように努めている。特に昼食後には実践の一つとしてカフェタイムを設け、好きな飲み物を選択できる時間を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんが主体である事を意識しながら、職員側の都合を優先するのではなく、出来るだけ一人一人のペースを大切にそれぞれに合わせた生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症状の進行によって更衣失行がある方にも、清潔でその人らしいおしゃれが出来るように関わっている。外出時には外出着に着替え、ご本人らしい装いで外出を楽しんでいる。定期的に訪問理容を利用して利用者さんには喜んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付け、調理の下ごしらえ、味見をしてもらうなど、利用者さんとの関わりの中で食事に対する楽しみを一緒に持っている。好物の確認、各自に合わせた提供方法、匂いの物を頂くこと、盛り付けの工夫で更に食欲を刺激している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を利用し、一人一人の状態を確認、把握し、職員間で情報を共有している。個々に合わせた食事量、具材の形態を整えて、栄養、水分摂取が確保出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、晩の口腔ケアを各自の状態に合わせて行っているが、毎回行えない時は、その方に合ったタイミングで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来る様に排泄パターンを把握し、各自に合わせたケアを行っている。時間排泄誘導、排泄用品の選択など、失禁して自尊心が傷つかないように対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材、乳製品など取り入れている。排便サイクルをチェック表で把握し、自然排便が出来るように、下剤を調整をして各自の状態に合わせて便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉気分を味わえる入浴剤や温泉マークの暖簾を用いて雰囲気を作り、環境を整えている。利用者さんとの関わりを大切にし、体調や気分などを考慮しながら、個々のタイミングを計り、入浴を楽しめるようになっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、年齢も考慮して日中昼寝をして頂く方や、昼夜逆転しない様に適切な日中の活動量を増やす等個々に合わせた関わりをしている。一人一人の気持ち思いを大切にし、就寝準備にはゆっくり関わって安心して入眠できるように努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容表をチェックし、目的、副作用を確認。錠剤が多く飲みづらい方には医師に相談し、粉碎する、服薬ゼリーを使用するなど飲みやすくして服用。また、職員間でトリプルチェック体制を確立して、服薬時には必ず確認し合う事を徹底し、誤薬を防ぐ体制を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で台所手伝い、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえなど本人の得意な事や持っている力を活かせるように支援している。園芸、塗り絵、パズルや花札、トランプ、ゲーム、脳トレ等でも楽しみ、張り合いのある生活を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、月々可能な限り、外出支援をしている。また、花見、遠出のドライブ、興味のあるイベント観覧など計画し実施している。外食や喫茶店を利用する等、各々の希望に合わせて個別対応しているが、今年度はコロナ禍の中、外出は控えている状況にある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの状況に応じて数千円程度、ご家族了解の元、自ら管理している方もいるが、大きな金額は事務所管理している。買い物時は個々の状態に合わせて自ら支払いして頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話を使えるようにしており、ご家族からの電話も取り次いでいる。ビデオ電話も出来るので、面会制限がある中、顔を見ながら話すことも出来ており、家族や友人との手紙のやり取りも出来る様に支援しており絆を繋げている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度湿度の調整、職員の動き立ち振る舞いに気を配り、利用者さんが不快な思いにならないような環境作りに努めている。季節ごとに皆で作成した作品なども装飾し、季節感を感じ、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの気分や状態に合わせてご自分で移動したり、職員が誘導している。それぞれが安心できる居場所になるように職員は関わり、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使っていた馴染みの家具や思い出の品、写真などがあって、安心して居心地良く過ごして頂ける様に環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの歩行時、利用するところには手すりがあり、床は段差、しきりはなく、分かりやすいように場所の表示をしたり、一人一人が安全に過ごせるよう工夫している。		